

## 次期岩手県環境基本計画における指標設定について

## 1 これまでの指標設定

- 第1次計画（1999年11月）  
数値目標：7つの施策の柱ごとに数値目標を設定（57指標、大項目あたり6～12）
- 第2次計画（2010年12月）  
目指す姿指標：7つの施策の柱ごとに設定（12指標）  
指標：上記を含む指標（90指標、大項目あたり11～21指標）

## 2 他県の状況

- 青森県（2020年3月）
  - ・目標設定指標：施策の柱ごとに37指標（うち数値目標は29）
  - ・モニタリング指標：施策の柱ごとに27指標（目標値を設定せず、経年推移を観測）
- 秋田県（2011年6月、2016年3月改定）
  - ・施策目標：重点プロジェクトごとに24指標（施策の柱には設定せず）
- 宮城県（2016年3月）
  - ・総合管理指標：施策の柱ごとに17指標（目標値を設定せず、経年推移を観測）
- 山形県（2012年3月、2017年3月改定）
  - ・基本目標：施策の柱ごとに6指標
  - ・環境指標：施策ごとに70指標
- 福島県（2017年3月）
  - ・環境指標：施策ごとに68指標

## 3 次期環境基本計画の目標設定

## (1) 指標を設定する目的及び役割・機能

- 目的  
環境基本計画の進捗の状況を評価する。
- 役割・機能  
計画の進捗状況を評価する目的は、以下の2点に分解されることから、指標もそれに応じた2層構造とする。
  - ① 環境の状況と目標（目指す姿）の達成状況を示す。（総合的指標）※幸福関連指標に相当
  - ② 施策の実施状況を示す。（施策推進指標）※具体的推進方策指標に相当

## (2) 総合的指標（別表1）

## （基本的な考え方）

環境基本計画は、①環境の保全及び創造に関する総合的かつ長期的な目標及び施策の方向を定めるものであり、環境施策の大綱的性格を有すること、②各分野では、本計画の施策の方向に基づき、別途、個別分野の計画（地球温暖化対策実行計画等）を策定するなどして、具体的な施策を推進しており、これらの個別計画では詳細な目標－指標体系を有していることから、環境基本計画では、より大きな方向性を示す指標を設定することが求められる。

よって、環境の状況や目標の達成状況を示す総合的指標については、多数列挙するよりも、できるだけ総合性・代表性の高い指標を基本に比較的少数に絞り込むこととし、国の環境基本計画を参考に具体的な指標を検討する。

## ア 横断的施策

環境のみならず、経済、社会の統合的向上を目指すものであり、横断的施策の効果を総体的に評価する指標として、国の環境基本計画を参考に、環境と社会経済の関係を端的に表す指標を検討する。

なお、当該指標においては、横断的施策以外の影響が大きく、目標値の設定が困難であるため、毎年度の進行管理に際し実績値を把握する指標（モニタリング指標）とする。

## イ 環境分野別施策

環境基本計画としてのメッセージ性を高める観点から、施策の柱ごとに総合的かつ代表的な指標を1～2程度設定する。

具体的には、上位計画であるいわて県民計画（2019～2028）政策推進プランに定める幸福関連指標を採用する。

なお、当該指標は、政策推進プランでは、2022年の目標値までしか設定されていないが、環境基本計画の推進力強化の観点から、目標年次を独自に延長し、2030年までの目標値を設定する方向で検討する

## (3) 施策推進指標（別表2）

施策の実施状況を示す施策推進指標については、主要な施策の方向ごとに3～5程度の指標を設定することを基本とし、全体の指標数を圧縮する。

また、目標値については、当該指標を設定している既存の計画における目標値（目標年次を含む）とし、当該計画との整合を図る。